

組合士

# アラカルト

日本ローカルネットワークシステム  
協同組合連合会九州・沖縄地域本部

事務局長

かわさき  
川崎みつえさん

## 「365日のうちの1日」を積み重ねて

### 勉強することが勉強になる

趣味は資格取得。今回お話を伺った川崎さんは、つこり微笑んでそう言う。「1年は誰にでも365日。試験を受ける日はその365日のうちのたった1日です。その1日の為に勉強することはできると思うし、そうすることが楽しい」

それで、その自然体な挑戦でこれまでに取得した資格の数は合計12。「ここ当面は、忙しすぎて取るに取れない」状況なので、組合士は実に、その12番目の栄えある？資格となっている。

その組合士として日々の業務で常に心がけていることは「組合員さんから質問されたらすぐに何でも答えられること」だそう。会議には想定問答を予想し、それに対応できるように準備に努めるという。

もちろん、容易なことではないが、「自分を信じて、『きっとできる』と思いつつハードルを高くしていくと、飛べないだろうと思う高いハードルも越えられるのと同じ。だから、後ろを向くのは反省するときだけ」と、常に前向きに仕事

に取り組んでいる。「仕事が大好き」なのだ。

組合士としても、業務に携わっている中で「勉強することが勉強になる」と実感しているそう。

### 人を好きになることがベース

業界に奉職して15年になる川崎さんの組織は、全国に1650社の組合員を持つ122の協同組合からなる連合会であり、会員の要件は「運輸・物流業に携わる組合員で構成される協同組合であること」となっている。

その中で、九州・沖縄地域本部の企業数は166社と軽く三桁を越す。「時には組合員の方とけんかすることもありますが。組合員企業が発展して欲しいと願っていますから、間違いは間違いというべきだと思います」。組合職員、組合士としての自負と姿勢が貫かれているのである。

組合運営に携わっていて何が一番楽しいかと伺ったら、「共同事業ができることかな？でも取扱高が増えるのが一番嬉しい」と答えが返ってきた。「いろいろな企画が立てられるし、1社でできない

ことが多くの力が集まれば、スケールメリットもあり、また、取扱高が増えれば、組織数が増えれば、全体の組合員企業の発展や業界立場の優遇に繋がると思いますが」と言う。

とはいえ、予算の調整や意思の統一を図るのは苦労も多いのではとさらに水を向けると、「もちろん、あつたらいいな」をすべて実行できるわけではない。財源と見合わせながら、できることから着手していくと、だんだん意思の統一も図れるし、1歩が2歩になり、気がつくとも5歩になっていることもあります」と答えが返ってきた。

「この組織は、特に厳しい業界にあり、組合員企業が元気になっていただくことが一番。仕事も大好きだし、この組織の組合員さん達も大好き」が基本の基本だそう。

### 「365日のうちの1歩」

事務局長として、組合士として、これだけフル活動の川崎さんだが、実は、「組合士」という資格を知ったのは、中央会友人からの「口コミ」情報だったそう。そんな実体験もあって、「もっと



認知されてしかるべき資格なのにもったいない。もっと周知して、もっと取得に挑戦してもらえよう」と、現在、九州圏内で唯一設立してない熊本県組合士協会の立ち上げ促進活動に力を注いでいる。「なかなか思うようには進まないけれど、わが連合会の組合の理事長さんや他県の組合士協会の役員さんたちのバックアップもいただいで、設立へ向けて一歩一歩を進めている」と、ここでもあくまで「できることから一歩ずつ」を基本に、前向き姿勢も忘れない。

最後に、これからの目標を伺ったら、「物流業は経済の要。しかし、コストダウン等のしわ寄せが一番先に受けてしまいう業界です。だからこそ業界の高感度アップや組織力強化の一助になりたいし、たとえばCO2削減など、物流業だからこそできる新しい動向にも真剣に着実に取り組みたいです」とのこと。そして、「組合士も業界も、資質をもっと向上させて、その重要性をアピールしていきたい。そういうことをたとえば地域貢献活動などを通じてながら実現していきたいですね」と結んでくださった。